

第19回国際ストーマリハビリテーション学会 アデレード大会のレポート

著者	吉田 和枝, 前川 厚子
雑誌名	三重看護学誌
巻	15
号	1
ページ	79-82
発行年	2013-03-15
その他のタイトル	Report: 19th World Council of Enterostomal Therapists Biennial Congress in Adelaide
URL	http://hdl.handle.net/10076/12448

第19回国際ストーマリハビリテーション学会 アデレード大会のレポート

吉田 和枝¹, 前川 厚子²

Report: 19th World Council of Enterostomal Therapists
Biennial Congress in Adelaide

Kazue YOSHIDA and Atsuko MAEKAWA

はじめに

去る2012年4月19日から23日まで、第19回国際ストーマリハビリテーション学会(19th World Council of Enterostomal Therapists Biennial Congress: 以下WCET)が、南オーストラリアのアデレードで開催されたので、その模様をレポートする(写真1)。本学会のテーマは“*Weaving Culture Education & Technology into a brilliant blend*”であった。WCETは国際的な規模でEnterostomal Therapy Nurse(ETナース)や皮膚排泄ケア認定看護師(WOCナース)が2年に1回日頃のケアや研究成果を発表する場である。

第19回の本学会は、世界47ヶ国から約900名のET達が参加し、各国の代表者が自身の国の民族衣装で登壇する盛大なオープニングセレモニーとともに幕が上がった(写真2-①, ②)。日本から14名のETやWOCナースが参加した。今回は、4月に開催ということで日本からの参加者は少なかった。筆者らは、



写真1 会場のアデレードコンベンションセンター



写真2-① オープニングセレモニーの風景



写真2-② オープニングセレモニーの風景

何回かWCETに参加しているが、毎回開催される国の特色を見るのと同じテーマで研究をしている研究者と意見を交わすのが楽しみの1つである。今回の学会に参加して、とても興味深いセッションがあったので紹介を兼ねて報告をする。

1 三重大学医学部看護学科

2 名古屋大学大学院医学系研究科

学会のプログラム構成について

学会全体のプログラムは、表1に示す。今回の学会では、5つの基調講演、49の招待講演、口演63題、

ポスター124題の発表で構成されていた。学会主催のオープニングセレモニー、Gala Dinner、Taste of South Australia at Sunsetなど盛りたくさんのプログラムがあった。私たちはポスター発表で参加した。オー

表1 Program

19. April. 2012				
12:00-13:30	Workshop 1		Workshop 3	
14:00-15:30	Workshop 2		Workshop 4	
18:00-20:00	Welcome Reception			
20. April. 2012				
7:00-8:15	Breakfast Symposium			
8:30-11:00	Opening Ceremony			
11:00-11:45	Morning tea			
11:45-13:15	Wound Stream	Ostomy Stream	Continence Stream	
13:15-14:30	Lunch			
14:30-15:00	Paediatric Wound Care	Ostomy	Continence Stream	
15:00-15:50	Skin Tear Management Session	QOL Ostomy Session	Faecal Continence Session	Professional Development Session
16:00-16:30	Afternoon tea			
16:30-16:50	Wound Management Session	Ostomy Session	Paediatric Continence Session	Research Session
17:00-17:30	Wound and Ostomy Care			
21. April. 2012				
7:00-8:15	Breakfast Symposium		Breakfast Symposium	
8:30-9:20	Plenary Session			
9:30-10:00	Gastroenterology Stream	Vascular Stream	Urology Stream	Dermatology Stream
10:00-10:45	Morning tea			
10:45-12:45	Nurses in Collaborative Practice	The Diabetic Foot	Urology and Surgery	Australian Focus: Bites, Stings and other skin things
12:45-14:00	Lunch			
14:00-15:15	Interventions and outcomes	Guidelines and Education	All things urology	Epidermolysis Bullosa
15:15-15:45	Afternoon tea			
15:45-16:15	Gastroenterology Workshop 1	Vascular Concurrent Workshop	Urology Workshop 1	Dermatology Workshop 1
16:20-16:50	Gastroenterology Workshop 2	Concurrent Workshop	Urology Workshop 2	Dermatology Workshop 2
19:00~	Congress gala Dinner			
22. April. 2012				
7:30-10:30	World Council of Enterostomal Therapists General Meeting			
10:00-11:30	Morning tea			
11:30-12:50	Plenary Session: Considerations in nursing the bariatric patient			
13:00-14:00	Lunch			
14:00-14:25	Ostomy	Wound	Continence Session	Professional Development Session
14:30-15:20	Multicultural Ostomy Session	Fistula Session	Paediatric Session	Assorted Ostomy Abstract Presentation
15:30-16:00	Afternoon tea			
16:00-17:20	Ostomy Session	Malignant Wound Care Session	Professional Development Session	Pressure Injury Session
17:30~	Taste of South Australia at Sunset			
23. April. 2012				
7:00-9:00	Australian Association of Stomal Therapy Nurses Inc AGM			
9:15-10:20	Panel Session			
10:20-10:45	Morning tea			
10:45-11:45	Masked			
11:45-12:30	Closing Ceremony			

プニングセレモニーでは、アデレードの市長がアデレードの風土の良さ、住みやすさ、海外留学生の多さをアピールしていた。またオープニングセレモニーに引き続いて、日本やイスラエルにおいて国際健康管理部門でコンサルタントとして馴染みのある Marry Jo Kroeber 女史が「オーストラリアにおけるストーマケア 40 年の変遷」を紹介する基調講演があった（写真 3）。Marry 女史のストーマケアへかける情熱が伝わってくる講演であった。また 4 月に行われたのでオーストラリアでは雨季ではないはずであるが、毎日午後になると夕立となり、本来学会会場の庭で行う予定であった Taste of South Australia at Sunset は、急遽室内で行われることになった。



写真 3 Marry 女史の講演

印象深いプログラム

1) Tanzanian Project

Best Practice in Wound and Ostomy Care in Tanzania と題した Keryln Carville 女史による招待講演である。Carville 女史は、西オーストラリア Silver Chain Nursing Association と Curtin University of Technology でオーストラリアのみならず海外に対してもストーマケアや創傷ケアの教育と研究を行なっている人である。タンザニアの WOC ナースは一名である。その ET が Carville 女史らの WOC プログラムを修了したことがきっかけとなりタンザニアプロジェクトが進められた。タンザニアは発展途上国であり、医療が進歩していないため劣悪な衛生環境やストーマケアおよび創傷ケアに対する知識不足や装具等の物流が発展しておらず、また指導をする WOC ナースが一人では、タンザニア全土に知識を伝播することは困難である。そこでこのプログラムは Carville 女史が、タンザニアで一人しかいない WOC ナースとともに看護師を集めて、ストーマケアや創傷ケアの指導を行なった現状を報告したものであった。Carville 女史は今後もタンザニアの

支援は大切であるが、支援を継続するための資金の捻出が大変であることを最後に訴えて講演を終えた（写真 4）。いくつかの質問の後に、WCET の前会長で学会の重鎮でもあり、開催地アデレードで活躍している Elizabeth English 女史がマイクの前に登場し、「このプロジェクトに学会の基金でもある Norma Gill Foundation を活用すべき」との一言で、会場内の参加者の拍手が起こり、タンザニアプロジェクトの継続が可能となった。まさに鶴の一声であった。



写真 4 タンザニアプロジェクトの報告風景

2) A different way to teach. Seeing is believing !!!

この講演は、いきなり会場に大きな声で叫びながら認知症かと思われるパジャマ姿の男性の老人が会場に入ってきた。この人こそが講演者である Kerry Reid Seal 女史であった。Kerry 女史の講演は、シミュレーション教育についてのものであった。映画の「MASK」を掛けて「MASK ED」とした講演であった。実際に Kerry 女史は、オーストラリアの Central Queensland University (CQ 大学) でシミュレーション教育を実践しており、日頃から老人の声や子供の声、若い女性の声といったボイストレーニングをしているということであった。CQ 大学では、このようなシミュレーション教育が大学の目玉であると大学 HP で紹介している。また講演の中では変装する準備の様子の写真なども紹介された。講演開始時に会場に入って来た Kerry 女史は、ストーマにカテーテルが挿入されており、排尿バックをつけた老人そのものであり、シミュレーション教育の本来の姿を学んだ気がした。講演の終了時は、参加者全員が Kerry 女史の講演をスタンディングオベーションでたたえた。講演でこのような光景を見たのは初めてだった（写真 5-①, ②）。まるでミュージカルのフィナーレのようであった。



写真5-① MASK 教育



写真5-② Kerry 女史の姿

スの参加が得られていた。それは、4月という新学期・新年度に開催したことによる影響であろう。年度初めは、臨床で活躍している WOC ナース達は、特に参加しにくい状況にあったことが予測された。

次回の開催地はスウェーデン・ヨーテボリである。筆者らは、2年に1回 WCET に参加することが楽しみであり、そのために日頃地道に取っているデータを発表する機会としている。今回、筆者らが時々研究の文献とし活用しているスウェーデン人の Ina 女史と知り合いになった(写真7)。次回の WCET であるスウェーデンでまた Ina 女史と再会できることを楽しみに研究に打ち込もうと自身に誓った学会であった。

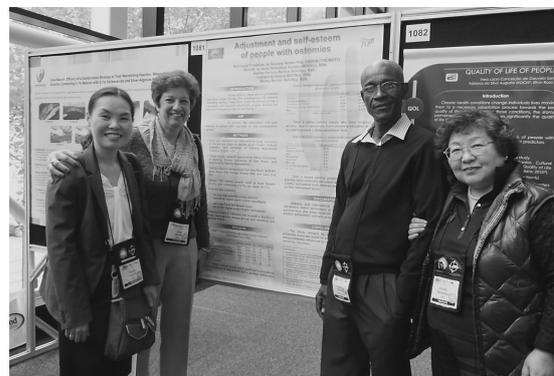


写真6 オストミー適応尺度 OAI-23 (前川) の共同研究者とともに

研究者との交流の場の学会

前述したが、WCETは2年に1回行われる学会である。国際共同研究者のリクルートや日頃はメールでやり取りをしているが、やはり会って直接話をするにより研究内容を深め、2年に一度の成果発表を踏まえての研究のブラッシュアップをする機会となる(写真6)。

おわりに

今回のアデレード大会は日本からの参加者が予想外に少なかった。これまでは50人を超える WOC ナー



写真7 Ina 女史と記念撮影